



宮司ブレス 第百八十号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年十一月二十一日

◇宮司の柴田です。夕風が肌寒く身にしみる折節となり、参道の楓(カエデ)や境内の桜の葉も霜葉(そうよう)と読み、霜に当たって紅葉した葉のことで」となりました。楓(カエデ)などは紅葉でありまして、银杏(いちじょう)などは黄葉なので。現存(げんぞん)する最古(さいこ)の歌集(かしゅう)である万葉集(まんようしゅう)には、「黄葉」という表記(ひょうき)が主流(しゅりゅう)だそうですが、漢詩(かんし)の影響(えいこう)とも、平城京(へいじょうきやう)の置かれた古都(こと)である奈良(なら)に、黄葉(わうはつ)の木が多(おほ)かったからともいわれています。当宮(とうきう)の境内(けいん)の神橋(しんばし)を渡(わた)れば、楓(かえで)が、うす紅(くれない)色(いろ)に染(し)まり、神橋(しんばし)下(した)の西側(せい側)の银杏(ぎんぎょ)を仰(あ)ぎ見(み)れば、黄色(きいろ)く色(いろ)づき、目(め)にも鮮(あざ)やかです。気温(きん)の高い日(ひ)が続(つ)き、秋(あき)の訪(たず)ねが遅(おそ)れていま

したが、季節(きせつ)の移(うつ)ろいは、冬(ふゆ)への歩(あ)みの速度(そくど)を早(はや)めたよう(よう)です。しかしながら、この五(ご)十年(ねん)で、紅葉(こうよう)が二(に)週(しゅう)間(かん)遅(おそ)れているのでありま(あ)す。にわかには信(しん)じがたい話(わ)なのですが、さらに、五(ご)十年(ねん)後(ご)は、十二(じふ)月(げつ)、

はたまた、クリスマス(クリスマス)の頃(ころ)になるかもしれない(かもしれない)そう(そう)です。多くの果(くだ)実(み)や穀(こ)物の実(み)る秋(あき)ですが、「み(み)のる」は「実(み)成(なる)」でありまして、「黄(わ)金色(きん)の頭(かぶ)を垂(た)れる稲(いな)穂(ほ)」の姿(すがた)に象(さ)徴(てい)される、ま(ま)さに収(と)穫(とく)の秋(あき)でありま(あ)す。英語(えいご)の秋(あき)(フォール)は、木(き)々の落(お)ち葉(は)に由(よ)来(らい)し、生(せい)命(めい)の衰(お)えや没(ぼつ)落(らく)の感(かん)覚(かく)です。しかしながら、日本(にっぽん)の秋(あき)は、柿(かき)の实(み)が赤(あか)くなるよう(よう)に、お米(こめ)を始(は)じめ多(おほ)くの果(くだ)実(み)穀(こ)物(ぶつ)が「赤(あか)らむ」、熟(じやく)するこ(こ)とに由(よ)来(らい)していま(いま)す。日本(にっぽん)語(ご)の秋(あき)は、「明(あ)らむ」であり、光(ひかり)に満(み)ちた明(あ)るい季(き)節(せつ)な(な)ので(ので)す。実(み)は、「紅(こう)葉(はつ)葉(はつ) (もみじば)の」とい(い)う言(こと)葉(は)は、「過(あ)ぎ」や「散(ち)り」さら(さら)には、「移(うつ)り」にか(か)かる枕(まくら)詞(ことば)「ま(ま)くら(もみじば)です。やがては、散(ち)りゆ(ゆ)くうす紅(こう)の葉(は)や黄(わ)色(いろ)く色(いろ)づいた葉(は)に、季(き)節(せつ)の移(うつ)ろいと、静(しず)かな時(とき)の流(なが)れを感(かん)じる昨(けつ)今(こん)です。◇さて、コ(こ)ロナウ(う)イル(る)ス(の)感(かん)染(せん)拡(かく)大(だい)が確(た)認(にん)さ(さ)れてから、二(に)年(ねん)が経(た)過(か)しよ(よ)うと(と)していま(いま)す。生(せい)活(かつ)、環(かん)境(けい)も変(へん)容(よう)さ(さ)れる日(ひ)々(ごと)でありま(あ)した。古(こ)来(らい)より、「生(せい)活(かつ)の古(こ)典(てん)」と(と)して、各(かく)地(ち)に伝(でん)承(じやう)さ(さ)れてい(い)る祭(まつ)典(てん)行(ぎやう)事(じ)は、その「疫(えき)病(びやう)(えきびやう)、は(は)や(や)り病(びやう)(やまい)」を退(たい)散(さん)、除(じよ)くた

めに齋行(さいこう)されてきたと言(い)って(い)ても過(か)言(ごん)ではあ(あ)りま(ま)せん。私(わが)共(ども)の祭(まつ)典(てん)行(ぎやう)事(じ)も、変(へん)容(よう)せ(せ)ざるを(を)得(と)くなく(なく)なり、ま(ま)さに、「疫(えき)病(びやう)(えきびやう)を除(のぞ)く(く)べき祭(まつ)が、省(しょう)略(りやく)され(れ)除(じよ)かれ」た日(ひ)々(ごと)の歩(あ)みで(で)あり(あ)りま(ま)した(し)たが、しな(しな)やか(か)に知(ち)恵(え)をし(し)ぼり、創(そう)意(い)工(こう)夫(ふ)を(を)して「祭(まつ)典(てん)厳(げん)修(しゆ)(さいてんげんしゅう)」を(を)心(こ)掛(か)けてま(ま)いりま(ま)した(し)た。◇今(こん)、グ(グ)ロー(ロー)バ(バ)ル(ル)コ(コ)モ(モ)ン(ン)ズ(ズ)(地球(ちきゅう)の共(きょう)有(ゆう)財(ざい)産(さん)である環(かん)境(けい)・エ(エ)ネ(ネ)ル(ル)ギ(ギ)ー・公(こう)衆(しゆ)衛(ゑい)生(せい)のこ(こ)と)が、危(き)機(き)的(てき)状(じやう)況(きやう)下(か)に(に)あ(あ)り、世(せ)界(かい)的(てき)な排(はい)出(しゆつ)ガ(ガ)ス(ス)の削(さく)減(げん)の問(もん)題(だい)は、環(かん)境(けい)とエ(エ)ネ(ネ)ル(ル)ギ(ギ)ーに(に)関(かん)わ(わ)る(る)こ(こ)と(と)で(で)す(す)し、特(とく)に公(こう)衆(しゆ)衛(ゑい)生(せい)に(に)関(かん)して(して)は、新(しん)型(がた)コ(コ)ロ(ロ)ナ(ナ)感(かん)染(せん)症(しやう)の脅(きやう)威(ゐ)(きやうゐ)に(に)さら(さら)さ(さ)れて(て)いま(いま)す。国(こく)連(れん)は、令(れい)和(わ)十(じゅう)二(に)年(ねん)、西(せい)暦(れき)で(で)申(ま)し(し)上(あ)げま(ま)す(す)と、二(に)、〇(じゅう)三(さん)〇(じゅう)年(ねん)ま(ま)で(で)に、国(こく)際(さい)社(しゃ)会(かい)の共(きょう)通(つう)の目(め)標(ひょう)、持(ぢ)続(ぞく)可(か)能(にやう)な開(かい)発(はつ)目(め)標(ひょう)(SDGs)、エ(エ)ス(ス)・デ(デー)ィ(ー)・ジ(ジ)ー(ー)ズ(ズ)を(を)設(てい)定(てい)し(し)て(て)いま(いま)す。大(だい)自(じ)然(ぜん)は、刻(こ)々(こくこく)と(と)移(うつ)り変(へん)わり(わり)ま(ま)す(す)が、そ(そ)れ(れ)が、常(じょう)で(で)あ(あ)り、当(たう)たり前(ぜん)のこ(こ)と(と)で(で)す。そ(そ)の(の)よ(よ)う(う)な(な)と(と)き(き)に(に)は、日(ひ)々(ごと)の(の)か(か)す(す)か(か)な(な)変(へん)化(か)は(は)気(き)付(つ)き(き)にく(にく)い(い)も(も)の(の)で(で)す。し(し)か(か)し(し)な(な)が(が)ら、国(こく)際(さい)社(しゃ)会(かい)に(に)共(きょう)通(つう)する新(しん)型(がた)コ(コ)ロ(ロ)ナ(ナ)感(かん)染(せん)症(しやう)の(の)拡(かく)大(だい)、二(に)年(ねん)間(かん)の(の)コ(コ)ロ(ロ)ナ(ナ)禍(わざ)は、こ(こ)の(の)共(きょう)通(つう)目(め)標(ひょう)を(を)再(さい)確(た)認(にん)する機(き)会(かい)に(に)な(な)って(て)いま(いま)す。私(わが)は、日本(にっぽん)でも(でも)、こ(こ)の(の)コ(コ)ロ(ロ)ナ(ナ)禍(わざ)、け(け)っ(っ)つ(つ)して(して)忘(わす)れて(て)は(は)な(な)ら(ら)ない(ない)、未(み)来(らい)永(えい)劫(ごう)(みらいえいごう)守(まも)り

はたまた、クリスマス(クリスマス)の頃(ころ)になるかもしれない(かもしれない)そう(そう)です。多くの果(くだ)実(み)や穀(こ)物の実(み)る秋(あき)ですが、「み(み)のる」は「実(み)成(なる)」でありまして、「黄(わ)金色(きん)の頭(かぶ)を垂(た)れる稲(いな)穂(ほ)」の姿(すがた)に象(さ)徴(てい)される、ま(ま)さに収(と)穫(とく)の秋(あき)でありま(あ)す。英語(えいご)の秋(あき)(フォール)は、木(き)々の落(お)ち葉(は)に由(よ)来(らい)し、生(せい)命(めい)の衰(お)えや没(ぼつ)落(らく)の感(かん)覚(かく)です。しかしながら、日本(にっぽん)の秋(あき)は、柿(かき)の实(み)が赤(あか)くなるよう(よう)に、お米(こめ)を始(は)じめ多(おほ)くの果(くだ)実(み)穀(こ)物(ぶつ)が「赤(あか)らむ」、熟(じやく)するこ(こ)とに由(よ)来(らい)していま(いま)す。日本(にっぽん)語(ご)の秋(あき)は、「明(あ)らむ」であり、光(ひかり)に満(み)ちた明(あ)るい季(き)節(せつ)な(な)ので(ので)す。実(み)は、「紅(こう)葉(はつ)葉(はつ) (もみじば)の」とい(い)う言(こと)葉(は)は、「過(あ)ぎ」や「散(ち)り」さら(さら)には、「移(うつ)り」にか(か)かる枕(まくら)詞(ことば)「ま(ま)くら(もみじば)です。やがては、散(ち)りゆ(ゆ)くうす紅(こう)の葉(は)や黄(わ)色(いろ)く色(いろ)づいた葉(は)に、季(き)節(せつ)の移(うつ)ろいと、静(しず)かな時(とき)の流(なが)れを感(かん)じる昨(けつ)今(こん)です。◇さて、コ(こ)ロナウ(う)イル(る)ス(の)感(かん)染(せん)拡(かく)大(だい)が確(た)認(にん)さ(さ)れてから、二(に)年(ねん)が経(た)過(か)しよ(よ)うと(と)していま(いま)す。生(せい)活(かつ)、環(かん)境(けい)も変(へん)容(よう)さ(さ)れる日(ひ)々(ごと)でありま(あ)した。古(こ)来(らい)より、「生(せい)活(かつ)の古(こ)典(てん)」と(と)して、各(かく)地(ち)に伝(でん)承(じやう)さ(さ)れてい(い)る祭(まつ)典(てん)行(ぎやう)事(じ)は、その「疫(えき)病(びやう)(えきびやう)、は(は)や(や)り病(びやう)(やまい)」を退(たい)散(さん)、除(じよ)くた

はたまた、クリスマス(クリスマス)の頃(ころ)になるかもしれない(かもしれない)そう(そう)です。多くの果(くだ)実(み)や穀(こ)物の実(み)る秋(あき)ですが、「み(み)のる」は「実(み)成(なる)」でありまして、「黄(わ)金色(きん)の頭(かぶ)を垂(た)れる稲(いな)穂(ほ)」の姿(すがた)に象(さ)徴(てい)される、ま(ま)さに収(と)穫(とく)の秋(あき)でありま(あ)す。英語(えいご)の秋(あき)(フォール)は、木(き)々の落(お)ち葉(は)に由(よ)来(らい)し、生(せい)命(めい)の衰(お)えや没(ぼつ)落(らく)の感(かん)覚(かく)です。しかしながら、日本(にっぽん)の秋(あき)は、柿(かき)の实(み)が赤(あか)くなるよう(よう)に、お米(こめ)を始(は)じめ多(おほ)くの果(くだ)実(み)穀(こ)物(ぶつ)が「赤(あか)らむ」、熟(じやく)するこ(こ)とに由(よ)来(らい)していま(いま)す。日本(にっぽん)語(ご)の秋(あき)は、「明(あ)らむ」であり、光(ひかり)に満(み)ちた明(あ)るい季(き)節(せつ)な(な)ので(ので)す。実(み)は、「紅(こう)葉(はつ)葉(はつ) (もみじば)の」とい(い)う言(こと)葉(は)は、「過(あ)ぎ」や「散(ち)り」さら(さら)には、「移(うつ)り」にか(か)かる枕(まくら)詞(ことば)「ま(ま)くら(もみじば)です。やがては、散(ち)りゆ(ゆ)くうす紅(こう)の葉(は)や黄(わ)色(いろ)く色(いろ)づいた葉(は)に、季(き)節(せつ)の移(うつ)ろいと、静(しず)かな時(とき)の流(なが)れを感(かん)じる昨(けつ)今(こん)です。◇さて、コ(こ)ロナウ(う)イル(る)ス(の)感(かん)染(せん)拡(かく)大(だい)が確(た)認(にん)さ(さ)れてから、二(に)年(ねん)が経(た)過(か)しよ(よ)うと(と)していま(いま)す。生(せい)活(かつ)、環(かん)境(けい)も変(へん)容(よう)さ(さ)れる日(ひ)々(ごと)でありま(あ)した。古(こ)来(らい)より、「生(せい)活(かつ)の古(こ)典(てん)」と(と)して、各(かく)地(ち)に伝(でん)承(じやう)さ(さ)れてい(い)る祭(まつ)典(てん)行(ぎやう)事(じ)は、その「疫(えき)病(びやう)(えきびやう)、は(は)や(や)り病(びやう)(やまい)」を退(たい)散(さん)、除(じよ)くた

伝えなければならぬ、いわば日本人のSDGsともいえるべき、「日本人のオブリージュ」が、発揚（はつよう）されたのではないかと思います。そのことが、第五波に及（およ）ぶ感染の拡大はありましたけれども、現在、コロナウイルスと共存する「新型コロナウイルスのインフルエンザ化」、通常の感染症として沈静化（ちんせいしか）の様相（ようそう）を呈（てい）しているのではないかと考えます。

◇「オブリージュ」とは、感謝の心・公德心（こうとくしん）という意味です。日本の事を「大和（やまと）」と申しますけれども、大和とは、大いなるやわらぎであり、人のことを心から思う真心であり、思いやりにほかなりません。「幸せ」には、三種類あるそうです。一つは、「してもらう幸せ」、もう一つは、「出来る幸せ」、さらに、「してあげる幸せ」の三つだそうです。今、生かされていること、「してもらう幸せ」に心から感謝をし、そして、「幸せは自分の心が決める」、今を生き活きと生きる、「出来る幸せ」を、謙虚（けんこ）にかみしめながら、思いやり利他の心を忘れず、「してあげる幸せ」の日々を過ごす、これこそ、まさに、「日本人のオブリージュ」ではないでしょうか。

◇この二年間の経験から、感染拡大につながる要因は、ある程度わかっています。

大きく三つほどあります。一つは、寒い頃に流行する傾向があるということ、もう一つは、大型連休前後や年末年始、年度替り等の長距離の移動、さらに、普段会わない人と会う機会の増加の時期だそうです。したがって、昨年と同じように、今年の年末も、感染拡大のリスクは、高いといえるでしょう。いま少し、誇り高き、「日本人のオブリージュ」を駆使した暮らしを心掛けなければなりません。そして、「今日という一日は残りの人生のスタートの日」、瞬間瞬間を大切に、今を一生懸命に生き活きとお暮らしください、「明らむ」、光に満ちた明るい日々でありますようにお祈り申し上げます。

◇十月秋季例大祭 \*十月二十四日



◇十一月の祭典行事予定（報告も含む）

▼月次祭 \*十一月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 \*十一月一日

▼明治祭 \*十一月三日

▼龍宮神社例祭 \*十一月三日

▼花手水 \*十一月十二日～十五日



▼朝粥会 \*十一月二十一日

▼新嘗祭

▼彦島八幡宮 \*十一月二十三日

▼六連島八幡宮 \*十一月二十五日

◇十一月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

□奉賛会行事委員会

◆総代会 \*十一月二十三日

◆奉賛会行事委員会

※稲藁（いなわら）刈取作業

\*十一月二日

▼山口県神社庁関係

□下関支部神宮大麻頒布始祭

\*十一月四日

□神社関係者大会 \*十一月二十九日